

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770200814		
法人名	特定非営利活動法人 カオス		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	福島県会津若松市神指町大字黒川字湯側東228番地		
自己評価作成日	平成21年10月21日	評価結果市町村受理日	平成22年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ケアをさせていただいている」という気持ちで、入居者の方の生活に関らせていただいている。入居者の方は経験の豊かな人生の先輩として、プライド・プライバシーにも配慮しケアを行うよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関は、事務手続きや外来者への対応ができるよう広いスペースとなっている。また、「こんな介護をしていきたい」と題して平易な言葉で表現された目標が外来者にもわかるよう掲示されている。利用者の表情も良く、落ち着いて生活しており、利用者等は事業所の対応に満足しているものと思われる。職員全員が、最近の3ヶ月間に重度化に伴う看取り介護を体験して、重要な経験と気づきを学んだことで、重度化に対応する意識の向上につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で一人ひとりが、自分らしく生活していくために、日々のケアを理念を基本としとも考え、スタッフ全員が共有し実践できるよう心掛けている。	理念は職員全員で作成しており、理念に基づいた利用者本位のケアができていないかを常に意識して、より良い介護のあり方に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事には地域の方に案内状をお送りし参加の呼びかけを行い交流の機会を作っている。毎日同じ店に買い物に行き、馴染みの関係を作っている。	隣接する中学校の体験学習の生徒を受け入れており、日赤奉仕団によるボランティア、美容院などが定期的に訪れている。日常の食材の購入を近所の商店で行うことや催事の情報を発信することで地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所のボランティアの方が来所されたときに、認知症の方の対応についてお話させていただいた。入所申込にこられた方の介護相談に乗ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議ではホームの近況を報告したり、運営していく上での課題などについて話し合い、いただいた意見を取り入れるようにしている。	会議は定期開催されており、事業所側からは利用者の近況や介護保険制度の改定内容など時宜を得た情報提供が行われている。知見者を含めた構成メンバーの発言も多岐にわたっており事業所の運営に積極的に関わっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護上疑問に思ったことは、市の担当者の方に相談し意見をいただいている。	介護保険制度についての具体的な疑問や相談に対して市は速やかに対応してくれている。事業所で発行している広報紙を持参したり、運営推進会議の記録を提示するなど情報提供がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての研修会に参加し資料を職員に回覧し周知を図った。研修会の資料を基にマニュアルを策定した。	運営規定やマニュアルに規定されている身体拘束関連の内容について全ての職員が理解している。玄関の施錠はしていないので外出願望のある利用者に対しては見守りを行い、本人が混乱しないように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加し、資料を回覧するとともに勉強会を行い周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットからの情報や認知症実践者研修の中の資料を回覧し、周知徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭ならびに文書でお伝えし、理解をいただいている。不明な点があればその都度お伺いし、納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画の説明の時や面会に来られたとき、運営推進会議の報告をするときに意見をいただくようにしている。利用者の方には、その都度意見を伺っている。	家族の来訪時や運営推進会議で疑問や要望に対しては速やかに対応している。玄関に意見箱を設置してあるが投函実績はない。利用者からの不満や要望は日常の支援の中から読み取り、本人の気持ちに沿うよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週一回のミーティングを実施し職員が意見・提案を言える場を設け運営に反映させている。	ミーティングにおいては忌憚のない意見や要望が出されており、代表者は繁忙な時間帯にパートを補充するなど速やかに対応して、職員が働きやすい環境づくりに務めている。人事についても職員の希望を優先して法人内の施設との交流を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力や実績、勤務状況を報告しており代表者はその事を基に職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の成長段階に応じた研修を受講させている。受講した後は勉強会で発表し情報・知識技術の共有化及びプレゼンテーション能力の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属し協議会主催の研修などで他事業所の職員と交流を図り情報交換しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された方の話を傾聴し、表情や行動からも思いを汲み取り本人が安心して過していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に家族の方に来ていただき、時間をかけてお話を伺うようにしている。又入居後は、家族の方が訪問されたときに入居されてからの様子などを報告し家族の方とともに支えあえるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、ご本人や家族の方の言葉や思いを大切に受け止めサービスに繋げている。又、ボランティア活用も視野に入れながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレクリエーションを入居者の方と一緒にしながら長年の経験を伺い日々の生活に取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方がこられたときに近況を報告し、又家族の方からも情報をケアに生かし実践した結果について報告しさらに次のプランに活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中から本人が大事にしている場所をうかがい、一緒に出かけたりしている。歴史の本や写真集を見ていただき思い出を伺ったりしている。	利用者一人ひとりの経歴や思い出を大切に、アルバムを見ながら話を聞いたり、外出の折には市内の史跡を訪ねたりお墓参りに行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルに座る位置を工夫し職員も同席しレクリエーションや家事を一緒にしていただきながらコミュニケーションがとれるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族の方から、介護相談を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から思いを汲み取り、困難な場合でも表情や行動を観察し本人本位のケアを心掛けている。一つ一つ本人の意思を確認しながらケアを行っている。	入居時のアセスメントのみに頼らず、利用者の日常の行動や心情を把握し、本人に適したサービスを行うよう務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用しこれまでの暮らし方について把握するように努めている。入居時や家族の方が面会に来られた時、介護計画の説明をさせて頂いた時、今までの生活の中のエピソード等をお伺いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し現在の状況を把握しカンファレンスや記録から職員間で情報を交換しケアに活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り、カンファレンス時に意見を出し合い、家族の方が面会に来られた時や介護計画の説明の時にモニタリングの結果をお話し家族の方の意見を伺いそれを介護計画に反映している。	利用者の身体状況の変化や利用者・家族の意向、実施記録に基づくモニタリング結果に職員の意見を取入れ、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の会話や日常生活での変化を記録し職員間で共有し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方の身体的変化にあわせ安心・安楽な生活が送れるよう福祉用具のレンタルを活用したりしている。又身体的ケアが多くなってきたため、ケアの集中する時間帯に職員を補充している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方と図書館で本を選んで頂きレクリエーションに活用している。町内会の皆様方がボランティアに来て下さったりホームでの行事にも他のボランティアの方が来て下さるなど地域の方の協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望で受診して頂いている。基本的に受診は家族同行であるが緊急時や家族がやむおえない場合は職員が対応している。	かかりつけ医への受診は本人と家族の希望を尊重し、原則として家族が付添って通院している。緊急時の協力医療機関との連携も十分に取れており、隣接する内科医の協力で往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化が見られた時はその都度看護師に報告をし指示を受け必要な場合受診などの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院された場合はケアの継続が図れるよう病棟看護師と連携を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合いを行い事業所のできる事・出来ない事を十分理解して頂きながら本人にとって精神的、身体的にも苦痛の少ない終末期ケアを行うよう努めている。	重度化・見取り介護の方針を策定しており、家族との同意書を交わしている。最近の3ヶ月間、看取りの実例があったことで、職員全員が終末期の医療と介護の原点を改めて意識する貴重な体験をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署で行われている研修会に参加し応急手当を習得するように努めている。事業所内においては事例を基に医師から具体的なアドバイスを得たりカンファランスを行い知識や技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災避難訓練を行っている。地震・水害などの災害時の訓練は今後計画する予定である。	年に2回夜間想定の方針を策定しており、家族との同意書を交わしている。最近の3ヶ月間、看取りの実例があったことで、職員全員が終末期の医療と介護の原点を改めて意識する貴重な体験をしている。	火災発生時における職員の初期行動は極めて重要であるため、運営推進会議の開催日に行ったり、近隣住民へ積極的に呼びかけるなどして訓練の経験を蓄積してほしい。備蓄については食料だけでなく暖房器具も準備してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経験の豊かな人生の先輩としてお話しさせていただいている。ケアを行う時の声をかける場所や声掛けについて常に点検し入居者の方のプライドやプライバシーを損ねないように、その都度指導を行っている。	日常の会話の中でも利用者への尊敬の念を以って丁寧に接している。ケアに当たっては個人の尊厳を重視し、プライバシーを損ねることのないように務めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様々な場面において、選択や自己決定が出来るよう働きかけている。その人の言葉や表情・動作などから思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるがお一人お一人の過し方や気持ちに沿ってその人らしい生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人お一人の力に応じて服を選んでいただけるよう声掛けの工夫をしている。髪形についても訪問美容師さんに本人の希望に沿って整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理前に献立の内容をお伝えし、お一人お一人の力に合わせて調理や盛り付けを一緒に行っている。一緒に食事をしながら感想や好みのものを伺ったりしている。	食材は毎日近所の商店へ行って購入している。利用者は出来る範囲で買い物、調理、盛り付け、後片付けに協力している。また、その日の状態で居室で食事を摂ることもでき、時間をかけてゆっくり食事を楽しむ工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量をチェックしており、状態に応じて食事の形態の工夫をし栄養や水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの自立度に応じて毎食後、声掛けや介助にて口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、声掛けしトイレで排泄していただけるよう支援している。	排泄チェック表により、さりげなく誘導して自立排泄に心がけている。排泄パットを使用している利用者については居室での保管の場所が家族や来訪者の目に触れないように配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・運動に留意し、個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を優先し、入浴を楽しんでいただけるようにコミュニケーションをとり、リラックスした状態で入浴していただくよう支援している。	入浴の時間帯は特定せず、利用者の好みの時間に合わせて支援している。入浴を拒否する利用者に対しては担当を替えたり、時間差をつけて気分転換をはかったりするが無理強いはいらない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣や体調・希望に合わせて起床・就寝、昼寝の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報提供書を活用しながら把握に努めている。処方変更時は変更された薬の用法など記録し状態の変化についても留意しながら介護に当たっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや家事活動を通して一人ひとりが主役になれるように働きかけている。生活暦を生かし、気分転換のためのドライブやコーヒESHOPに出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望や気分に応じて散歩や買い物・ドライブに出かけたりしている。外出を好まない方へも、声掛けに工夫し外出していただけるよう働きかけている。	日々の買い物や墓参など、外出は一人ひとりの希望を取り入れて行っている。外出を好まない利用者には気分転換になる機会を考慮しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行していただいた時にその方の力に応じて支払いをしていただいている。手元にお金をおきたい方には、ご本人の意思を尊重し家族の方の了解の元にご本人に管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に電話をかける時間などについて家族の方と相談し、ご本人の希望にできるだけ沿うようにしている。ご家族からお便りがあった場合は、ハガキなどをお渡しし返事を進めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は光り・温度・湿度に留意し適切な環境となるよう配慮している。季節ごとに飾る花を変え、日本古来の行事を取り入れ職員も一緒に飾り付けをし季節を感じていただけるよう工夫している。	居間は高い天井から自然光がふりそそぎ、冬期間でも晴れた日には暖房が要らないほどの温度が保たれており、利用者は落ち着いて好みの場所で過ごしている。通路に面した色違いの飾り棚が個室の入り口になっており、それぞれの色が利用者の表札代わりにになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ローカの一角にソファやイスを置き一人で静かに過ごしていただける空間を作っている。食堂に隣接した和室は気のあった方同士洗濯物をたたんだり談笑するスペースとなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	プライバシーに配慮し、居室は全室個室となっている。入居時には本人の使い慣れたものや馴染みの物を持ってきていただき、落ち着いて暮らしていただけるようにしている。	居室の入り口の飾り棚には家族との写真や手芸品などが飾られている。全室が南向きに位置しており、利用者の馴染みの家具や調度品が配置されている。前庭には好みの花を植えることもでき、木製のサンデッキで自分だけの時間を寛ぐことができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の飾りだなの色と食堂の椅子の色を統一し分かりやすくしている。テーブルの高さが合わない入居者の方には高さの調節できるテーブルを個別に準備し自立して食事が出来るよう配慮している。		